

第15号

会報 めいおんの会

発行 平成28年3月14日

「めいおんの会」(名古屋音楽大学出身教員の会)

事務局 名古屋市緑区大清水四丁目522

TEL・FAX (052) 877-1243

発行責任者 会長 百合草 薫

## 名音大との絆に支えられ

めいおんの会 副会長 (名古屋市立扇台中学校長)

川合 恒之 (S58 卒4期)

「めいおんの会」に携わるようになり、ここ数年間は、毎年大学を訪れ、先生方とお話をさせていただき機会を得ました。再び名古屋音楽大学との絆が結び直されたような気がしています。

昭和58年3月に作曲科を卒業後、4月には中学校の音楽科教員としての生活をスタートさせました。右も左も分からない状態で、ひたすら毎日を必死で過ごしていたように思います。また、当時は名古屋市のほとんどの学校が、校内暴力やシンナーの吸引といった生徒指導に関わる問題を抱えていました。そんな中、音楽の授業もきちんと歌わせることすらできない状態でした。ある時、生徒たちとのやり取りの中で、「授業の歌はつまらない」「今はやりの歌謡曲が歌いたい」という声を聞きました。ためしに取り上げてみると、授業での歌声が少し変わりました。そこで、合唱コンクールの候補曲として、最新のヒットチャートの曲を何曲か混声三部合唱に編曲しました。徹夜をしながらの突貫作業で、とても大変でしたが、担当していた学年のほとんどのクラスが自由曲として選んでくれ、確かに例年より盛り上がった覚えがあります。指導力のなさを、選曲で補っているのも、根本的な解決にはなっていませんが、当時は大学で学んだことが教育活動に生かされた、初めて思えた瞬間でした。

また、それなりに経験を積み、「音楽づくり」について研究をする機会を得た時も、「民族音楽を活用してみよう」と思い付いたのは、大学時代のガムラン体験があったに違いないと思います。そして、打楽器の栗原先生には、突然の問い合わせにも卒業生であるということでも、温かく対応していただきました。学生の皆さんに混じって、特別に体験させていただいたことをよく覚えています。

このように、名音大での学生生活で学んだことが、今は血となり肉となり、音楽教師としての自分を長年にわたり支えてくれたのです。「めいおんの会」への参加があったからこそ、大学との絆が今の自分を支えているということも、あらためて確認することができました。今はこの絆を、末永く大切にしたいと思っています。

### ♪♪平成28年度 総会・研修会・懇親会のご案内♪♪

【期 日】 8月21日(日) <午前>総会・研修会 <午後>懇親会 【会 場】 名古屋音楽大学

【講 師】 名古屋音楽大学非常勤講師・オルガニスト 小川 有紀 先生

【内 容】 「パイプオルガンの魅力」 <仮題>

楽器についてのお話、参加者の演奏体験、「フーガ短調」の指導・音楽教育におけるパイプオルガンについての意見交換、講師の演奏、オルガン伴奏による合唱などを予定しています。

乞うご期待を！ お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

## 投 稿

### 産休・育休からの仕事復帰

名古屋・宮中 中村由美子

(H16卒・25期)

今、若い方たちの中には、教職に就き、仕事をしっかり覚え、結婚し、出産しても仕事を続けたい。「子ども仕事も」と考える人も多いと思います。出産、育休、復帰までの出来事を一言でお話することはとても無理ですが、経験から少しだけお話させていただきます。

私は今年度、産前産後休暇、育児休暇を3年半経て仕事復帰しました。現在は、4歳の長女と3歳の長男を育児しながら母として、担任、合唱部、生徒会顧問として働いています。結論から言うと育休復帰後「サポート」なしの状態で教職を続けることは困難です。しかし、今は行政によってさまざまなサポート機関がありますので、ご自分の育児環境を調べておかれることをぜひお勧めします。

そして、何より一番重要なサポーターは「パートナー」です。この方のポテンシャルはその他のバランスに大きく影響します。また、パートナーのサポートが見込めない方も、子育ての経験者である「実母」「義母」はとても大きな力をもつ協力者ですので、出産前から良好な関係を築いておいてください。もちろん、ここに挙げた方は一般的な例を示しています。その他にも協力者は、職場の上司、先輩、後輩、兄弟、親戚等、周りにたくさんいらっしゃいます。サポーターには「大変な時には助けてほしい。」と素直に、そして、具体的にお話して事前をお願いしておくことが大切です。ちなみに、私は、両親、義母ともに預けられない時があり、仲の良い近所の方に一日子どもを預かっていただきました。そんなふうに切り抜けながら、いつか、職場でご恩返ししたいと願う日々です。

最後に、私も「めいおんの会」の一人として、育児をしながら仕事に関わる方の力になれたらうれしいです。

## 会員の活躍

- ◆NHK全国学校音楽コンクール 伊藤比佐乃 (名・富士中、S58卒) <名古屋>銀賞
- ◆愛知県合唱コンクール 伊藤比佐乃 (名・富士中) <県>金賞、◆各県吹奏楽コンクール 中西 功 (名・平田中、S61卒) <名古屋>銀賞、森田 恭子 (名・鳴海中、H22卒) <名古屋>銀賞、井田麻由美 (三重・亀山中部中、H24卒) <三重>銀賞
- ☆ 上位入賞された先生方(指揮)です。このほか、合唱のピアノや日頃の指導・運営に携わり、上位入賞に貢献された先生方もみえます。また、音楽教育研究団体の運営や音楽関係行事のスタッフ等、学校外でも多くの会員が活躍しています。

### 1年目を振り返って

三重・東員第一中 佐久間梨絵

(H27卒・36期)

4月、希望と憧れを持ち、新しい人生の扉を開いたあの日からもうすぐ一年が経ちます。この一年は自分の中でターニングポイントとなりました。学生から社会人へと変わり、責任と時間を意識する日々でした。全校生徒の音楽を担当し、教材研究や成績処理等、授業時間以外の時間の使い方が大切だと実感しました。学生時代は膨大な時間がありましたが、社会人になり休日も学校のことで頭がいっぱいです。

また、部活動では吹奏楽部を担当し、始めは生徒と衝突する日々もありましたが、冬のアンサンブルコンテストでは約15年ぶりに地区大会突破、県大会へと駒を進めることができ、やりがいを感じています。

そして、2月には町のホールで合唱祭を行いました。学年が上がるにつれて歌声は大きくなり、豊かなハーモニーになります。合唱祭の最後は3年生の学年合唱「プレゼント」。この曲は2学期に全校生徒が音楽の授業で取り組み、全員が知っている曲であり、3年生にはプレッシャーがかかっていました。学年の合唱練習ではなかなか声を出すことができず、学年の教師に何度も叱られ、立ち上がったリーダーを中心に、本番では圧巻の歌声がホールいっぱい響き渡りました。その時、出会ってから今までの生徒たちの成長がみえ、もう卒業していくのかと少し寂しい気持ちになった反面、音楽の教員でいられる幸せを感じました。

一年を振り返り、先輩教員を始め多くの方々に支えていただき、昨年度よりも大きく成長した自分がいることを実感しています。社会人1年目のこの一年を生涯忘れることなく、今後も生徒と共に悩み・考え、成長していけるように精進してまいります。



### ＝編集後記＝

〇〇〇昨年配付しました授業のワークシートが好評のようです。「参考にして作ってみた」「評価がしやすい形なので使いやすかった」などの声をいただいています。これからも会員の先生方からいろいろな資料を提供していただき、お役に立てればと思います。ご協力をお願いします。(ゆ)

〇〇〇私の勤務するトワイライトスクールでは、先日、杵屋六春先生と「めいおん長唄三味線ガールズ」の皆さんが、子どもたちに三味線を演奏し、体験をさせていただきました。このきっかけは、平成25年のめいおんの会「三味線・長唄研修会」です。めいおんの会は、大学の先生方との繋がりをつくる会でもあります。大切にしていきたいものです。(ゆ)

